



ひかり

No.3

URL <http://www.kojimachi-e.ed.jp/>

平成28年5月31日
千代田区立麹町小学校
校長 山田 茂利

初夏の風もさわやかな季節となりました。

5月は、スポーツテスト、水泳学習の開始、2年生は校外学習、5年生は孺恋自然体験交流教室などの行事があり、この他にも全ての子供たちが、様々な教育活動を通し、また一つたくましく成長したと感じています。そして、これらの行事を含め、これから取り組む教育活動も、子供たちにはつながりを大切にして行われることで、より実り多いものになることを、体験を通して肌で感じてほしいと願っています。

さて、この“つながり（ふれあい）”を主眼として、今年も6月に都は全公立学校で「ふれあい月間」本校では「麹町小学校思いやり月間」を実施し、「いじめ問題の防止、早期発見・対応」及び「体罰問題」にも取り組みます。各ご家庭においても、子供の声に耳を傾け、学校生活における出来事などについて話し合う機会をもつとともに、いじめや暴力はいけないということについて再度ご指導いただき、何かご心配なことがございましたら学校にご相談、ご連絡くださるよう改めてお願いいたします。

ところで、「いじめ問題」は、これまでも繰り返した大きな課題となっていて、一朝一夕になくすことは難しいという現実があります。そこで、今号では「いじめ問題」について、皆さんと一緒に考えることができればと思い、関連する一冊の本をご紹介しますことにいたします。（粗筋で登場人物もABCにするなどの乱暴な紹介になりますことお許しください。）

* 《》は山田

ある日、教室にはいる途中で、Aという友だちが、コペル君（主人公中学2年）に体をくっつけて来て、小さな声で言いました。「あのね、Bのこと、この頃、「油揚げ」っていうんだよ。」「へえ。」コペル君には初耳でした。で、どうしてだい、とたずねると、おしゃべりで有名なA君は、ちょっとずるそうな笑いを顔に浮かべながら説明しました。「Bのやつ、弁当のおかずが、毎日、きまって油揚げなんだって。」（中略）

しかし、この時には、それをあだ名につけられていながら、自分でちっとも知らずにいるB君が、なんだか気の毒で、A君といっしょにクスクス笑う気にはなれませんでした。それでなくても、B君は、年中みんなからいい玩具にされて、何かにつけ、からかわれているのです。（中略）

同級の連中は、ほとんどみんな、B君を馬鹿にしていました。悪いはずらの好きな連中は、あきもしないでB君にいたずらをし、B君のこまる顔を見ては喜んでいました。（中略）

（授業中に回されてきた紙には）「アブラゲに演説させろ」と書いてありました。発信者は誰かわかりませんでしたけれど、（中略）B君を演壇に立たせ、ひやかしたり、やじったりし、B君のドギマギするところを笑ってやろうという趣向なのです。しかし、コペル君自身は、この電信に書いてあるとおりにしようとは思いませんでした。（中略）

電信はまわりにまわって、Aのところに来ました。Aは、さも意外そうな様子をわざとして、みんなに聞こえるくらい声を出して、電信を読み上げました。「アブラゲニ、エンゼツサセロと…。アブラゲって誰のことだい。」あっち、こっちから、クスクスという笑い声が起こりました。Aは得意でした。「ねえ。B。君、知ってるかい。」とたずねました。Bは、明らかにロウバイしました。めんくらった顔をAの方へ向けて、はずかしそうに、顔を左右に振りました。「僕、わからないんだ。」Aの仲間はドツと笑いました。つりこまれて、ほかの者も声をあげて笑いました。それを聞いた瞬間、B君にはすべてわかったのでしょうか、サッと顔色が変わりました。（中略）

その時です。ガタンと音がしたと思ったら、C君が立ち上がっていました。「A！卑怯だぞ。」C君は憤慨に堪えない様子で叫びました。「弱いものいじめはよせ！」（後略）

《この作品にはコペル君のおじさんが登場します。そして、おじさんは、その時々のお出来事についてコペル君から話を聞き、そのことについておじさんの考えを、交換ノートを通して述べるという流れで物語は進んでいきます。

そのコペル君とおじさんとのやりとりが奥深く、おじさんからの話は、出来事に対し徳目的なことをストレートに話すのではなく、人間や社会について一緒に考え、生き方について示唆を与えるという内容になっています。例えば、次のような言葉です。》

人間が、元来、何が正しいかを知り、それに基づいて自分の行動を自分で決定する力を持っているのでなかったら、自分のしてしまったことについて反省し、その誤りを悔いることは、およそ無意味なことではないか。

この本は、1937年8月に刊行された吉野源三郎さんの『君たちはどう生きるか』という作品です。

今から78年前、日本の少年少女に問いかけられた作品『君たちはどう生きるか』は、いつの時代にあっても、子供にも、また寄り添う大人にも、変わることはない私たちに対する問いかけではないでしょうか。（なお、紹介した内容は、1982年に岩波文庫で復刊された本を基にしています。）

子供たちが人には様々な考え方があるという人間の自然性や現実を見つめ、目をそらすことなく、自分の言動を道徳的な価値に照らして、善であるように行動し、善であるように生きること。そのことを私たちは一緒に考え手助けをしながら行動していくことが、**教**え**育**てることなのではないでしょうか。

6月4日（土）に道徳授業地区公開講座を開催します。本年度は「主として人とのかかわりに関することから」道徳の授業を行い、その後、2年生と4年生を中心に懇談会を開催いたします。（子供の在学中に2回、学校における道徳教育や家庭・地域社会における心の教育の在り方を、学校と一緒に考える機会にさせていただくことをねらいに計画いたしました。ご協力をお願いいたします。）

ご挨拶（転出職員）その2

いつまでもお元気で！

鈴木 和子

麴町小学校では2年8か月間お世話になりました。子供たちにはいつも元気をもらい、保護者や地域の皆様にはいつも温かくしていただき、本当に感謝の一言につきます。皆様との様々な思い出を大切に、そして子供たちの輝かしい未来を離れた地から願っております。



お知らせ

1 保護者会開催時の「いっとき保育」一時休止のお知らせ

このことについて、千代田区子ども部学務課から、次のように連絡がありましたのでお知らせします。「いっとき保育の需要の増大や、学校によって幼児の受入態勢が十分でないことから、安定して実施することが難しい状況になってまいりました。このため「いっとき保育」の継続に向けて、実施態勢等の整備・検討を進めています。保護者の皆様にはご不便をおかけいたしますが、以上の事情から5月分以降当面の受け付けは休止いたします。」

2 平河町方面の通学路について

児童の登下校の安全を考慮し、平成28年6月から右図のように通学路を追加いたします。

つきましては、該当する地区に関わらず、改めて各ご家庭で通学路の確認をお願いいたします。また、その際交通ルール等、学校でも指導いたしますが、ご家庭でも繰り返しご指導いただくようお願いいたします。



麴町小学校の人権教育「思いやり月間」について

麴町小学校では、人権教育の一環として「友達とのかかわりを深め、豊かな人間関係を築く」ことを目指して、自分の言動を振り返り、目標を立て、よりよく生活する（生きる）という次のような取り組みを昨年度から毎学期取り組んでいます。今号ではその1年間の取り組みについてご紹介します。

	1学期「ふれあい月間」	2学期「トライ&チャレンジ」	3学期「なかよし月間」
実施期間	6月1日（水） ～6月30日（木）	11月1日（火） ～11月30日（水）	2月1日（水） ～2月28日（火）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳、学級活動」 友達とのかかわりについて振り返る。 ○「目標カード」 目標を決めてカード(カエル、カタツムリ)に記録し、掲示する。 ○「振り返りカード」 自分の友達に対するかかわり方を見つめ直し、月間終了後に変容を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳、学級活動」 人とかかわりについて考えられる授業を全校一斉に実施する。 ○「目標カード」 目標を決めてカード(リス、紅葉)に記録し、掲示する。 ○「振り返りカード」 自分の友達に対するかかわり方を見つめなおし、月間終了後に変容を確かめる。 	<p>※1年間を振り返り、友達とのかかわりや人権の大切さについて見つめ直す。</p> <p>【1～5年生】 キッズ班の6年生に感謝の気持ちを持ち、手紙を書く。(6年生を送る会で渡す。)</p> <p>【6年生】 3月のキッズ活動で、今まで一緒に活動してきた班のメンバーに、何かできることを考える。(班ごとに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標カード」 目標を決めてカード(雪だるま、雪の結晶)に記録し、掲示する。 ○「振り返りカード」 自分の友達に対するかかわり方を見つめ直し、月間終了後に変容を確かめる。
準 備	<ul style="list-style-type: none"> ○カード ○模造紙 ○振り返りカード (自己評価とアンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○カード ○模造紙 ○振り返りカード (自己評価とアンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○カード ○模造紙 ○振り返りカード (自己評価とアンケート)

学年の窓

みんなの町を 探検だ！

3年担任 新谷 和彦、立田 淑恵、清水 千尋

新年度が始まってからおよそ2か月がたちました。子供たちも新しいクラスに慣れ、新しい友達と楽しく過ごす様子も見られるようになりました。

そのような中、社会科の学習で、各学級が3コースに分かれて、5月9日(月)、16日(月)、23日(月)の3回、町探検に行きました。学区内の土地の様子や使われ方、どんな建物があるかなど、実際に町を歩いて調べてみると、子供たちは、「坂が多い!」「大使館がいっぱいある!」「1階がお店だけど、2階以上はマンションだ!」など、地域の様子を特色として発見することができました。この後、各クラスでグループごとに町探検での発見を地図にまとめていきます。

この学習を通して、調べたことや考えたことを表現する力を育てるとともに、自分たちの住んでいる町の魅力に気付き、この地域をさらに好きになってくれればと思います。



We are 麴町探検隊!!

5年担任 木村 正太、海老名 文恵

5年生は、5月17日(火)・18日(水)の1泊2日で、麴町探検隊と銘打って「孀恋自然体験交流教室」に行ってきました。入隊資格は、「いつでも好奇心を忘れないこと」「仲間と協力すること」「仲間と自然を大切にすること」の3つを目標に行動することです。そして、この目標に向かって、孀恋村の大自然の中での活動全てにおいて、5年生の子供たち一人一人が、思う存分、力を発揮してきました。

1日目の野外料理体験活動では、班のみんなで協力しておいしい昼食を作り、完食しました。また、その後の鬼押し出し園の探索では、その地形から火山の恐ろしさを感じながらも、自然の雄大さに畏敬の念を抱くことができました。

そして、宿舎では、5分前集合を心掛け、班長を中心にみんなで協力して行動することもできました。

2日目の農業体験では、広大な農地に圧倒されながらも、おにぎりの会の方のお話をよく聞き、キャベツとジャガイモの植え付けをしました。子供たちは、日本一のキャベツ生産を誇る孀恋村の土の感触を確かめながら、集中して作業に取り組むことができました。

秋の孀恋自然体験交流教室では、春の体験を生かすことと、今回見つけた課題を追究することが目標になります。そのために、春の孀恋自然体験交流教室で身に付けたことを今後の生活に生かし、また課題については調べ学習を進め、秋の活動につなげられるよう子供と一緒に準備してまいります。

